

見聞録

「FC EXPO 2007」見聞録

鈴木 譲

株式会社 鈴木商館 ガス機器開発部豊田工場

〒470-0334 愛知県豊田市花本町井前 1 2 9 - 2

今回で3回目となるFC EXPO が2007年2月7日から2月9日まで東京ビッグサイトで開催されました。今回も水素エネルギー協会は共催という形でFC EXPO の開催を支援いたしました。年々規模が大きくなるこのFC EXPO ですが今回は出展企業は462社にのぼり、期間中の入場者は2月13日付の国際水素・燃料電池展事務局の発表によると24,494名にもなったそうです。



すっかりお馴染みのFC EXPO 入口風景

主催者側の運営も3回目ともなるとだいぶ運営方法等洗練されて来ている感があります。専門技術セミナー、出展企業による製品・技術セミナー、大学・国公立研究所による研究成果発表フォーラムなど講演関係も展示と同時並行で行なわれました。更にJHFC水素・燃料電池実証プロジェクト主催の燃料電池自動車・水素自動車試乗会も西屋外展示場にて行なわれ人気を博しました。更に、展示に関しても6つのゾーンと2つのパビリオン、1つのエリアに区分けされ来場者に分かり易いブース配置になっていました。ゾーン区分け内訳は図1のようになっていました。

今回のFC EXPO では一般家庭向けコジェネレーションシステムをはじめとした、民生用燃料電池システム関連の展示が増えたように思います。従来のように2億円

FC EXPO 2007の展示区分と出展者数

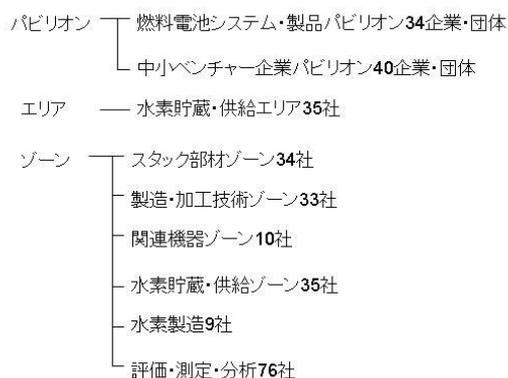


図1 FC EXPO 2007の展示区分と出展者数

の燃料電池自動車・・・と言うような物ばかりですと燃料電池の実用化はまだまだ先だな、コストも一般庶民には全く手の届かない物だなとの印象を与えがちです。ところが今年はどうでしょう、ポータブル機器向けの燃料電池ですとかSOFCを使ったポータブル電源、挙句の果てにお掃除ロボットからゴジラまでありました。印象としては見ていて楽しい、更には現燃料電池の開発最先端にいらっしゃる方々が燃料電池の問題点を重々承知して懸念されている事を振り切って余りあるぐらいの勢いがついて来ているのかなと言う感想です。もう後戻りは出来ないし、する必要は無いのかもしれませんが。市場は燃料電池開発者の思惑、懸念をよそに燃料電池の利用価値を認めどんどん勝手に応用分野を何人にも止められないパワーで拡げつつあるようです。

水素のインフラが整わないと真の燃料電池実用化は難しい、と考えるのは私のような自称水素エネルギー通だけかもしれません。反省しなければいけないと思います。水素インフラが無くても燃料電池が便利で価格もリーズナブルになって来ればともかく使う、家庭用の灯油改質装置等もその精神のように思います。

昨年同様水素エネルギー協会も出展ブースを確保いただき、運営組織説明パネル、出版物紹介、協会説明パンフレットの配布などPRをさせていただきました。

今回は東2ホール出入口入りすぐの場所で多くの方が立ち寄ってくださいました。立ち寄ってくださった皆様、大変に水素エネルギーに対する関心が強くかなり突

っ込んだ質問も多く、対応者が事務局女性だけの時はだいぶ対応に苦慮されたようです。

しかし、ここ数年水素エネルギーに対する関心は確実に多くの方がお持ちになっていらっしゃる事が協会ブースに数十分間おっただけでも体感できました。



展示会場風景



FC EXPO 2007 水素エネルギー協会 ブース